**こども施策審議会子育て支援部会議事概要**

日　　時　令和６年１１月１９日（火）　１６：００～１７：１０

場　　所　和歌山県書道資料館多目的ホール

参加委員　森下委員（会長）、松本委員（副会長）、亀位委員、城谷委員、田中恵紳委員、田中那美委員、花田委員、森田委員、山本委員、濵地専門委員

事務局等　こども未来課　戎脇課長、坂田政策班長、松本保育班長、辻本主任、こども支援課　西川児童福祉班長、医務課　増本地域医療班長、沖主事、健康推進課　中尾母子保健班長、佐伯主査、労働政策課　山本主査、生涯学習課　樋尻主事、特別支援教育室　黒田特別支援班長、義務教育課　本岡副課長、教育支援課　山田副課長

【事務局】

「資料１　和歌山県こども計画（仮称）素案」について説明

以下、発言順

【委員】

・７１ページの「社会全体で子供、若者や子育てを支援」の項目中に、フリースクールのことが書かれていない。和歌山県は不登校のこどもたちが多いと思う。学校外の居場所としてフリースクールの充実は必要。検討いただきたい。

【委員】

・４０ページの「障害等のある子ども及び若者への支援」について、就労移行支援事業所で勤務していると、全日制の高校や中学校の先生から、「障害のある生徒の就労サポートにおいて、福祉サービスについて知らず、保護者や本人にどうサポートしたらよいか分からず困っている。」と相談を受ける。先生に就労のサポートの違いなどの研修や勉強の機会が必要。教育と福祉は離れているところがあるので、先生にも福祉的視点を持っていただければ先生の負担も減る。

・赤ちゃん教室に参加した。中学校の生徒と触れ合いこどもも喜んでいた。そういう機会を増やし、世代を超え関わる機会があれば、中学生や高校生がこどもについてのイメージを持つことができ、親になったときに活きるのではないか。

【委員】

・４１ページの「障害児サポートセンター等」には発達障害の対応も含まれるのか。発達障害の支援センターは数が少ない。定期的に相談できるような仕組みがあれば良いと思う。

・発達障害の支援は、保育所まではあるが小学校になると手薄になるのが課題。

学校、学童保育、保健師、支援センター等、こどもと関係する機関が常に連携し、

支援内容を共有しながら、保護者やこどもの困り感を支える仕組みづくりが必要で

はないかと感じる。

【事務局】

障害児サポートセンター等に発達障害を含んでいると考えてはいない。発達障害支援の追記を検討する。

【委員】

・発達障害について、保育所を卒業するまでは地域の保健師が寄り添い支援するが、小学校に入ればつながりがなくなるのが現状。学校に入ってから不適応を起こしトラブルが続き、相談が来て支援することも多い。

・７４ページにあるように妊産婦の支援は充実させないといけない。国でも言われている。１歳で区切りができ、それ以降の支援が薄くなるのが現状。手薄になるところの支援は難しいかもしれないが必要。

【委員】

・発達に関連し支援が必要なこどももいるが、保護者がそれを認めず、そのまま学校に入るこどもも多い現状にあると思う。

・４歳児の時に保健師や医師が全員の保育を見て保護者に伝えている市もある。就学前にそういう健診があるとよい。

【委員】

・障害者手帳を持っていないこどもが途中から幼稚園に入ってくると、どう支援したらよいか、ノウハウがなく支援の方法へ行きつかないことがある。どういう支援があるか分かるようにしていただければ助かる。

【委員】

・医療には届かないが集団の中では難しい場合、小学校にどうつなぐかが重要。発達障害は、乳幼児期はサポートがあるが小学校期から手薄になる。小学校との情報共有は、個々だとできるが全体化には難しさがある。さらに中学校になると非常に難しく学校崩壊につながることもある。短大卒業後に、就職したがうまくいかず自らアセスメントを受けたケースもある。小学校の６年間に、保護者と話すことでプラスの方向につながるとうまく支援できる。

・大人になって初めて発達検査を受けるより、早く受けることで特性に向き合うことができる。

・４１ページの「地域における支援体制の強化」はもう少し具体的にしていただきたい。

・２８ページの「地域型保育事業」について、具体的な事業名を入れるとより分かりやすくなる。

【委員】

・仕事と子育ての両立に向けた職場環境の整備は重要。長時間労働の抑制や育児休業取得とあるが、具体的に何をするのか明記がいる。

・県庁では事業所内保育所など県庁職員に対しどういった取り組みが行われているか。

【事務局】

県庁内でも育児休業取得はまだまだなので、「男性育休１００％宣言」「勤務間インターバル宣言」「女性の再就職応援宣言」を行い、進めていくところ。

【委員】

障害等のあるこどもや若者への支援で、視覚障害の記載がない。自治会など地域であらゆる障害を持っている方に合わせたお互い助け合える仕組みを考えられればと思う。

【委員】

２７ページの社会形成への参画について、ボランティア活動はいろんな年代の方、いろんな立場の方がおり、社会経験になる。ボランティアは小さい頃からできる機会を与えられれば、自分も客観視でき、いろんな視点で考えられ、社会へ意見を述べる姿勢ができるなどプラス面が多い。小さい頃からボランティア活動に参加できる機会を作れればよいと思う。

【委員】

・８１ページの育児休業取得推進について、「男性の家事、子育てへの参画に意識改革を加え」とあるが、男性のみならず女性の意識も変えていく必要がある。女性自身が「女性が家事や育児をしないといけない」という意識を変える必要がある。

【委員】

・和歌山県新宮市で夜間中学校を開設するとの報道があった。夜間中学校は学ぶ機会がなかった方等が学べる重要な場所なので、計画に記載してもいいのかなと思う。

【委員】

・こどもの精神科のドクターが少ない。診察予約が取れない状況で、可及的に対応が必要と思う。予約が取れず診察に行けずにそのままになることもある。検討いただければと思う。